

## 5. 大阪 880 万人訓練について

### 調査結果の概要

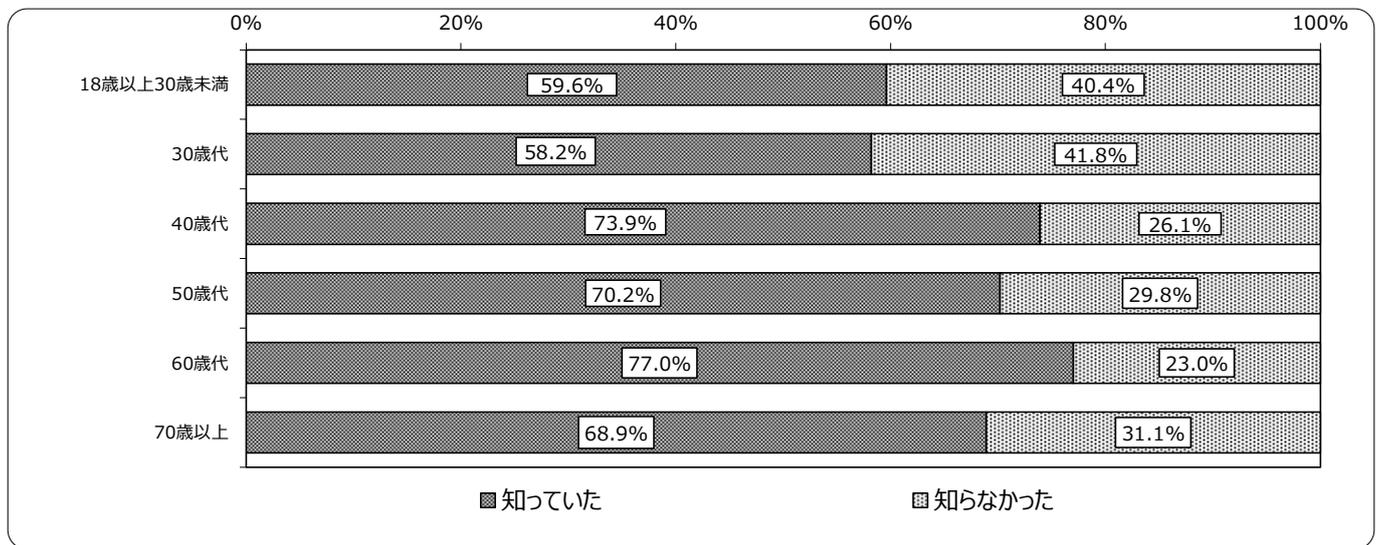
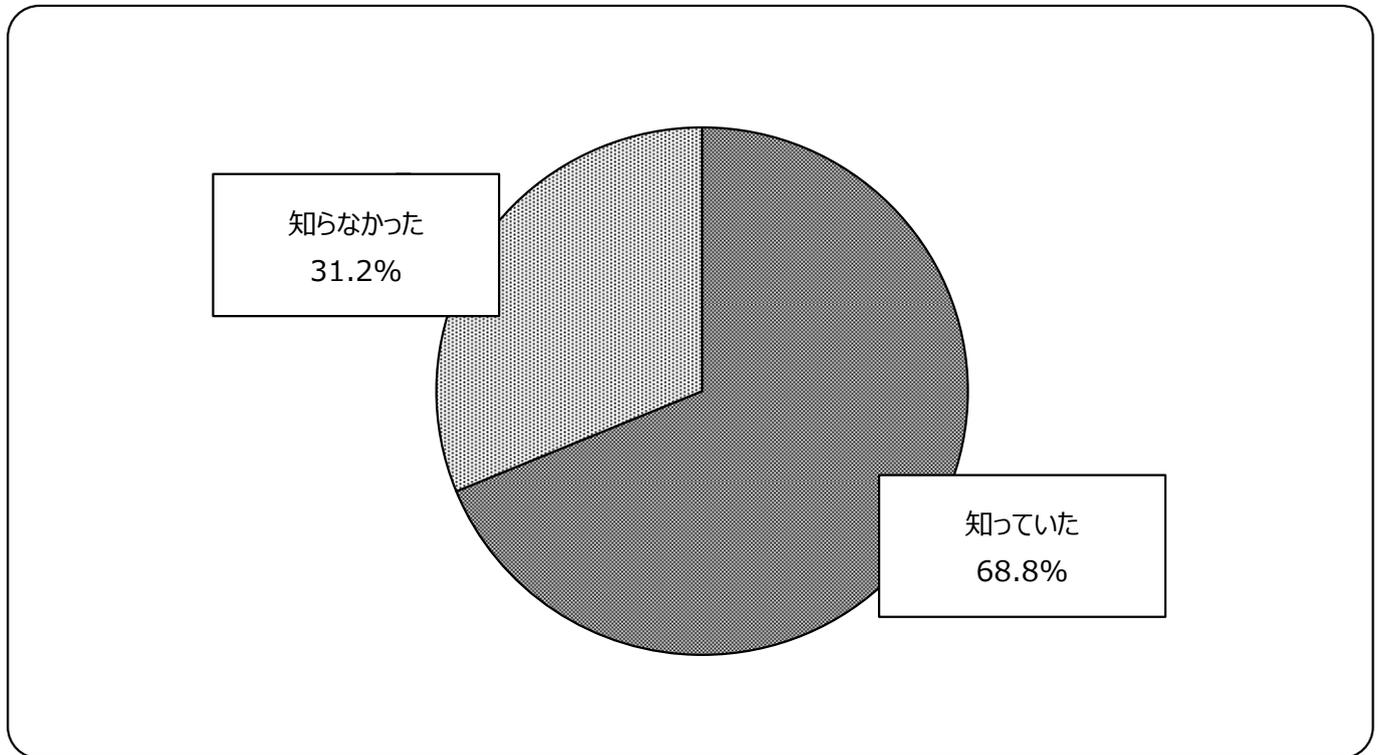
テーマ	大阪 880 万人訓練について
担当課	危機管理室 危機管理課
設問数	7 問
趣旨・目的	<p>令和 5 年度は、9 月 1 日に防災行政無線、緊急速報メールなどで南海トラフ巨大地震を想定した訓練情報を流し、その情報を受けた市民の皆様へ、ご家庭や学校・職場などそれぞれの場所で訓練を実施していただきました。</p> <p>今回のアンケートでは、皆様がこの訓練をどの程度知っていたかなどを検証します。また、次年度の訓練をより良いものにし、継続的な取組とすることにより、更なる防災意識の啓発につなげることを目的に実施します。</p>
調査結果	各設問のページをご覧ください。
調査結果に係る 担当課の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問 53 では、本訓練の開始日時について知らなかった方が全体で 31.2% でした。このうち、30 歳代においては 41.8%、18 歳以上 30 歳未満では 40.4% であり、これらの年齢層への広報も充実させます。</li> <li>・問 59 では、忙しかったことを理由に本訓練に参加しなかった方が全体で 49.2% でした。このうち 18 歳以上 30 歳未満では 59.5%、30 歳代では 57.1%、50 歳代では 55.4% であり、これらの年齢層への参加を促す取組が必要です。また、具体的に何をすればよいのか分からなかったことを理由に本訓練に参加しなかった方が全体で 31.3% でした。このうち 60 歳代で 40.8%、70 歳以上で 40.4% であり、これらの年齢層の方に、本訓練への参加方法や行動を分かりやすく伝達する取組が必要です。</li> <li>・以上の結果を受け、具体的な取組として、令和 6 年度から 18 歳以上 30 歳未満の方が防災情報の入手媒体・経路として多く利用する SNS に広報の重点をおき、市ホームページ、X（旧 Twitter）、Facebook 及び LINE への掲載回数を増やします。</li> <li>・また、すべての年齢層で防災情報の入手媒体として活用されているテレビ・ラジオによる周知を報道関係機関に依頼しました。その他、大阪府や大阪府市長会、大阪府町村長会に対して、大阪防災アプリの紹介や訓練参加者への参加認定証制度、訓練参加好事例集（マニュアル）の提供等を提言しました。</li> </ul>

(1) 大阪 880 万人訓練について

問 53. 訓練開始日時（9月1日13時30分）より前に、この訓練があることを知っていましたか。 【1つ選択】

「知らなかった」と回答した方が 30 歳代以下で約 4 割を占め、他の年代に比して多かった。

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	知っていた	324	68.8%
2	知らなかった	147	31.2%
	計 (回答総数)	471	100.0%



問 54. 問 53 で「1 知っていた」と回答された方に伺います。

今回の訓練についてどのような媒体・経路で知りましたか。

【複数選択可：いくつでも】

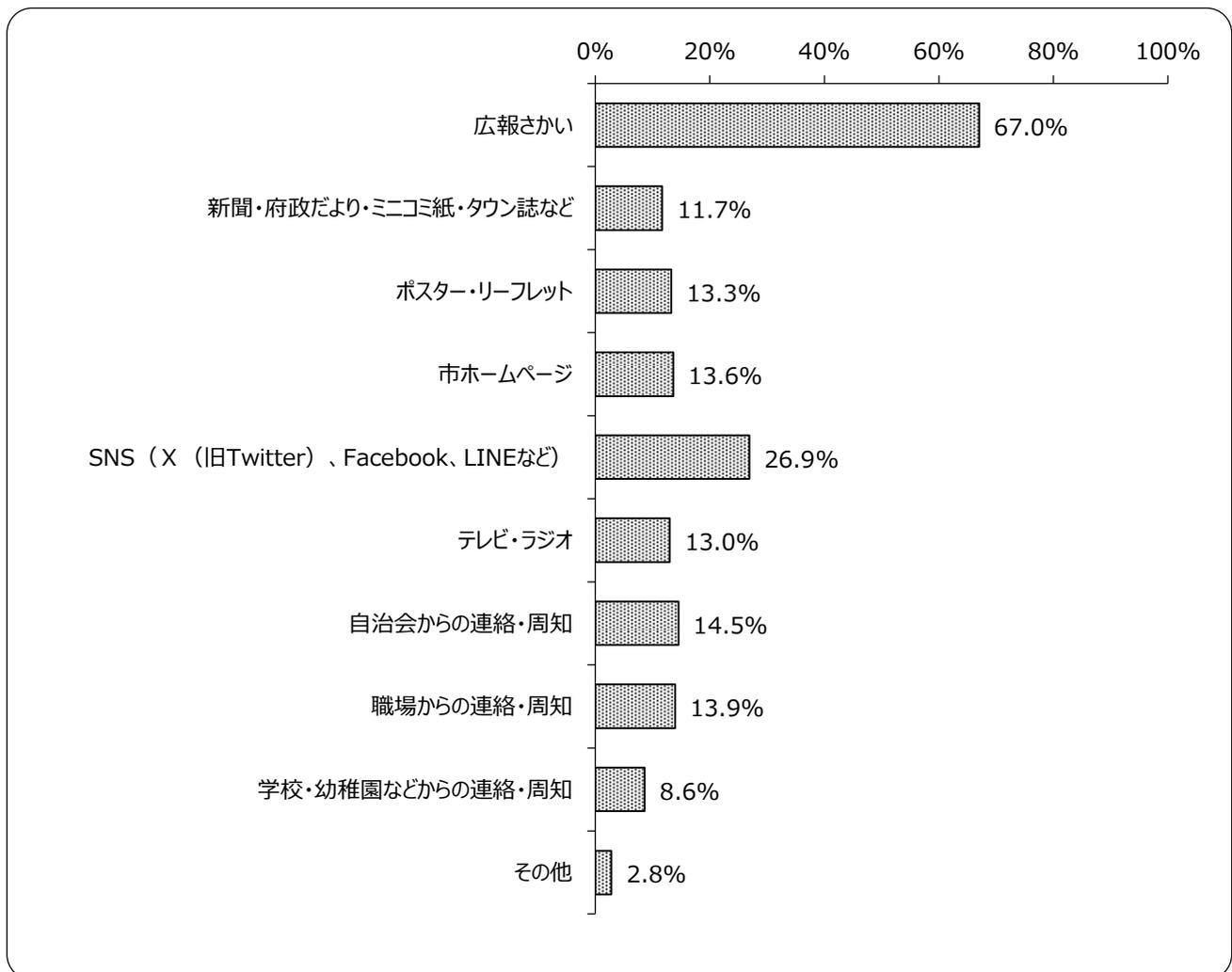
「SNS（X（旧 Twitter）、Facebook、LINE など）」と回答した方は 26.9%であり、令和 2 年度の 13.4%から増加した。

	選択項目 (N=324)	回答数	回答数/N
1	広報さかい	217	67.0%
2	新聞・府政だより・ミニコミ紙・タウン誌など	38	11.7%
3	ポスター・リーフレット	43	13.3%
4	市ホームページ	44	13.6%
5	SNS（X（旧Twitter）、Facebook、LINEなど）	87	26.9%
6	テレビ・ラジオ	42	13.0%
7	自治会からの連絡・周知	47	14.5%
8	職場からの連絡・周知	45	13.9%
9	学校・幼稚園などからの連絡・周知	28	8.6%
10	その他	9	2.8%

[10 その他]

【主な回答】

- 車内放送
- 毎年の訓練なので知っていた。
- 携帯メール
- 他市居住者からの連絡



問 55. 問 53 で「2 知らなかった」と回答された方に伺います。

近年、様々な媒体を通じて防災に関する情報が発信されていますが、こうした防災情報をどのような手段で受け取っていますか。  
【複数選択可：いくつでも】

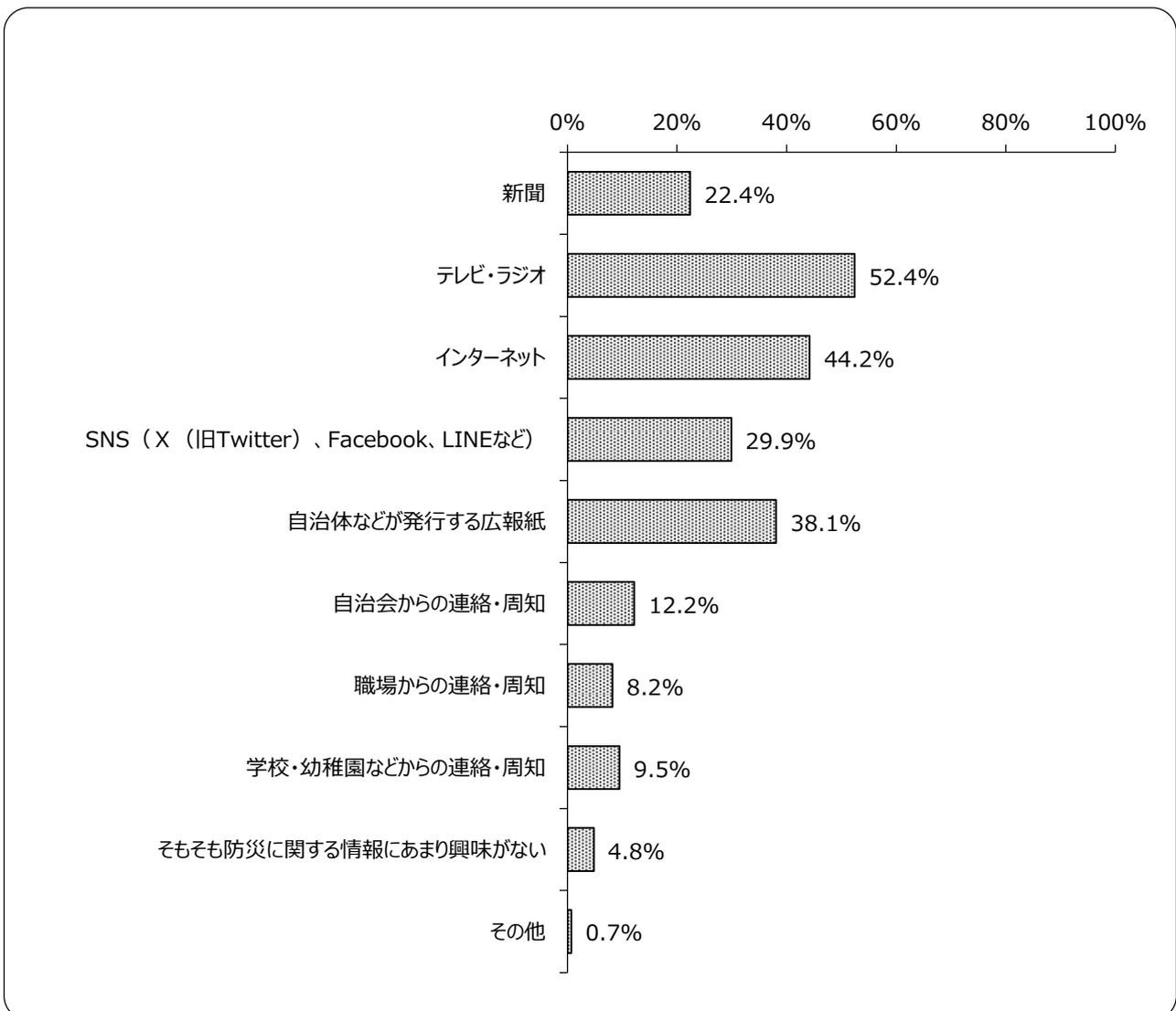
防災情報の入手手段としては、「テレビ・ラジオ」が 52.4%、「インターネット」が 44.2%であった。

	選択項目 (N=147)	回答数	回答数/N
1	新聞	33	22.4%
2	テレビ・ラジオ	77	52.4%
3	インターネット	65	44.2%
4	SNS (X (旧Twitter)、Facebook、LINEなど)	44	29.9%
5	自治体などが発行する広報紙	56	38.1%
6	自治会からの連絡・周知	18	12.2%
7	職場からの連絡・周知	12	8.2%
8	学校・幼稚園などからの連絡・周知	14	9.5%
9	そもそも防災に関する情報にあまり興味がない	7	4.8%
10	その他	1	0.7%

[10 その他]

【全回答】

- 防災に関する情報をどこから得ればよいのか分からなかった。

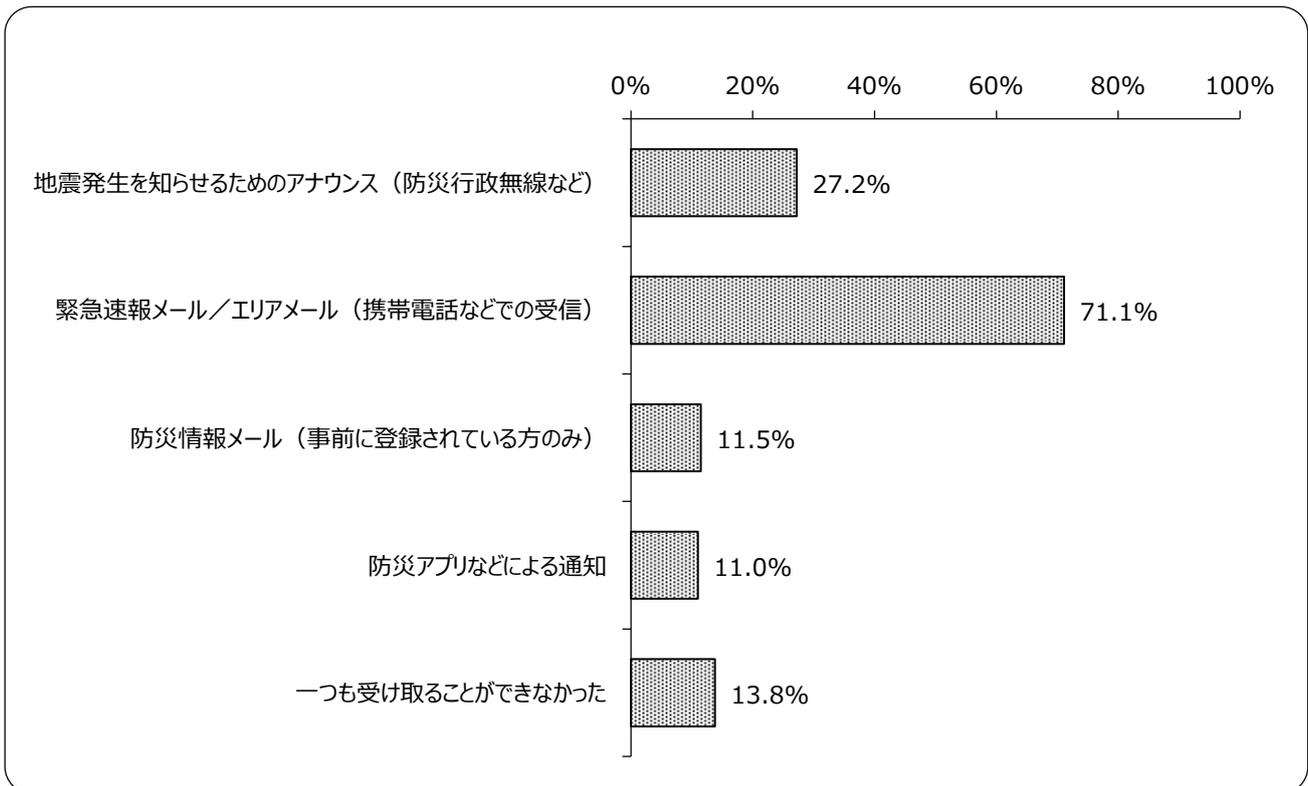


問 56. 訓練開始の合図として、4 種類アナウンスを行いました。あなたはどの合図を受け取ることができましたか。

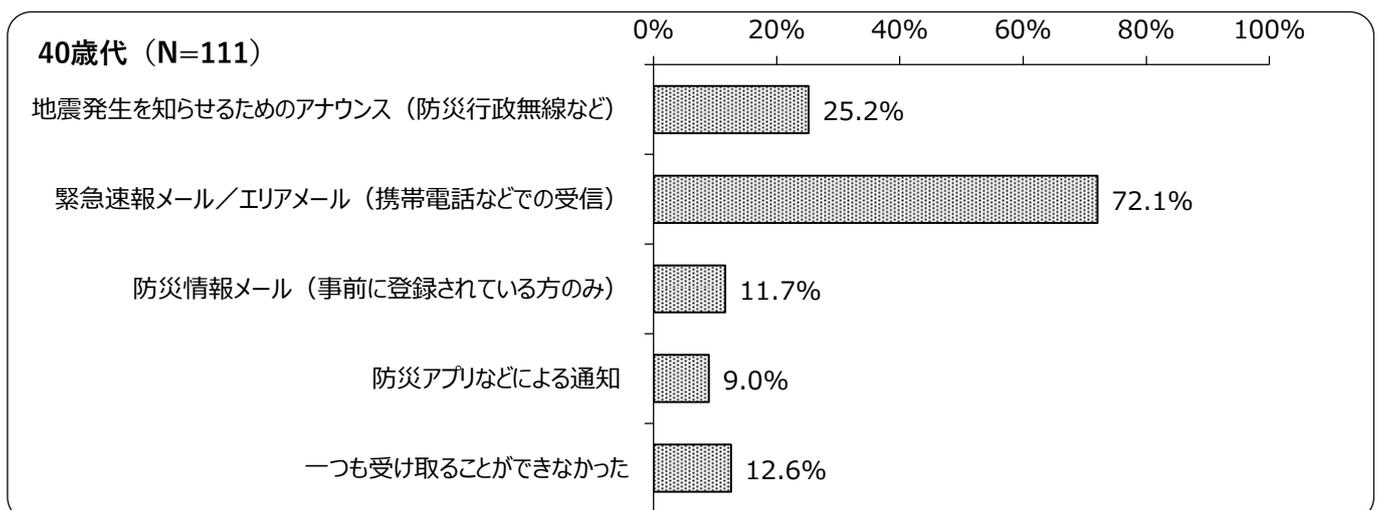
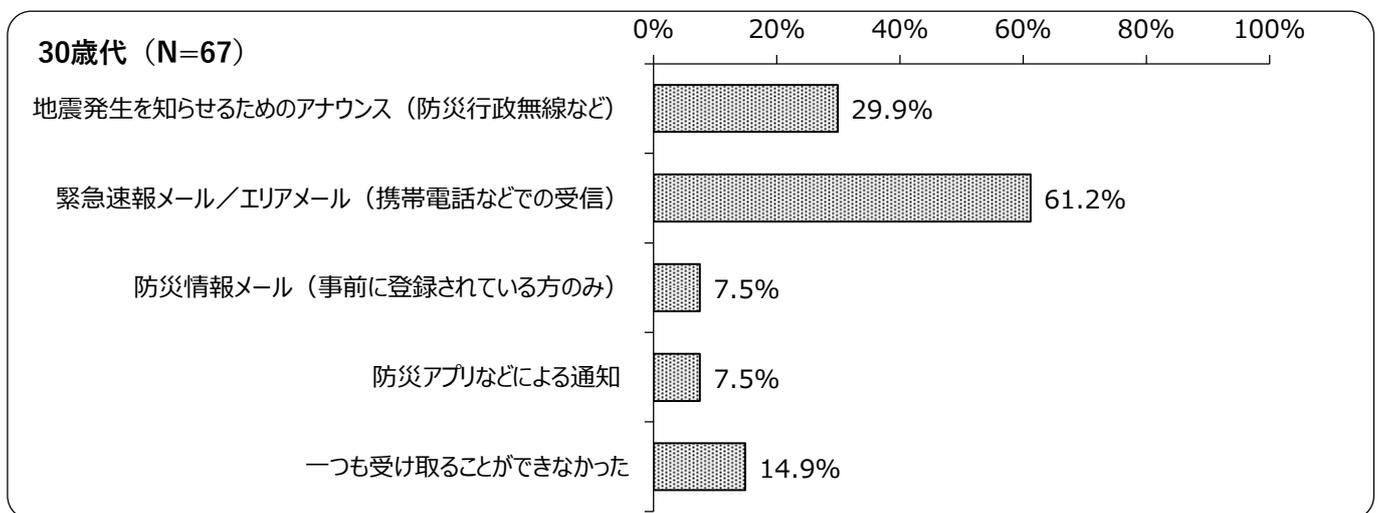
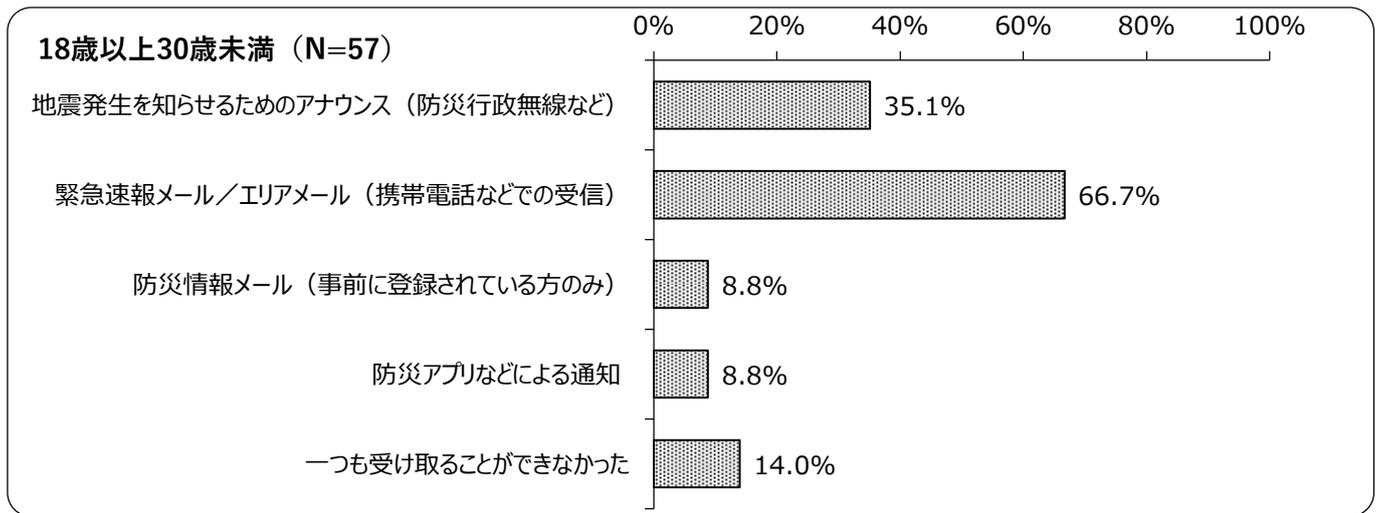
【複数選択可：いつでも】

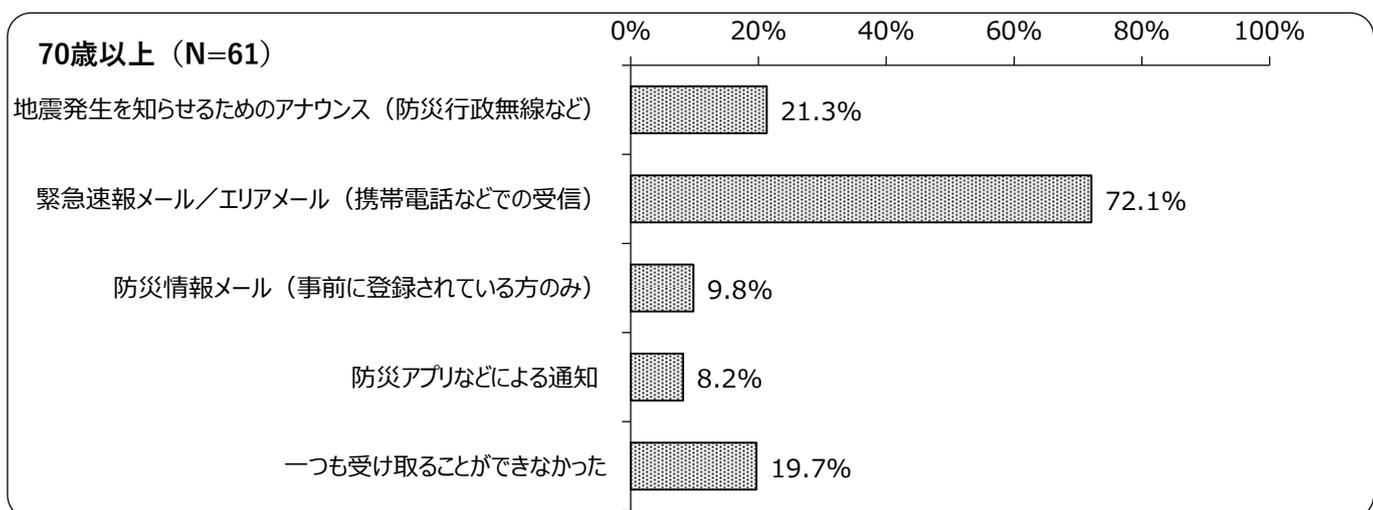
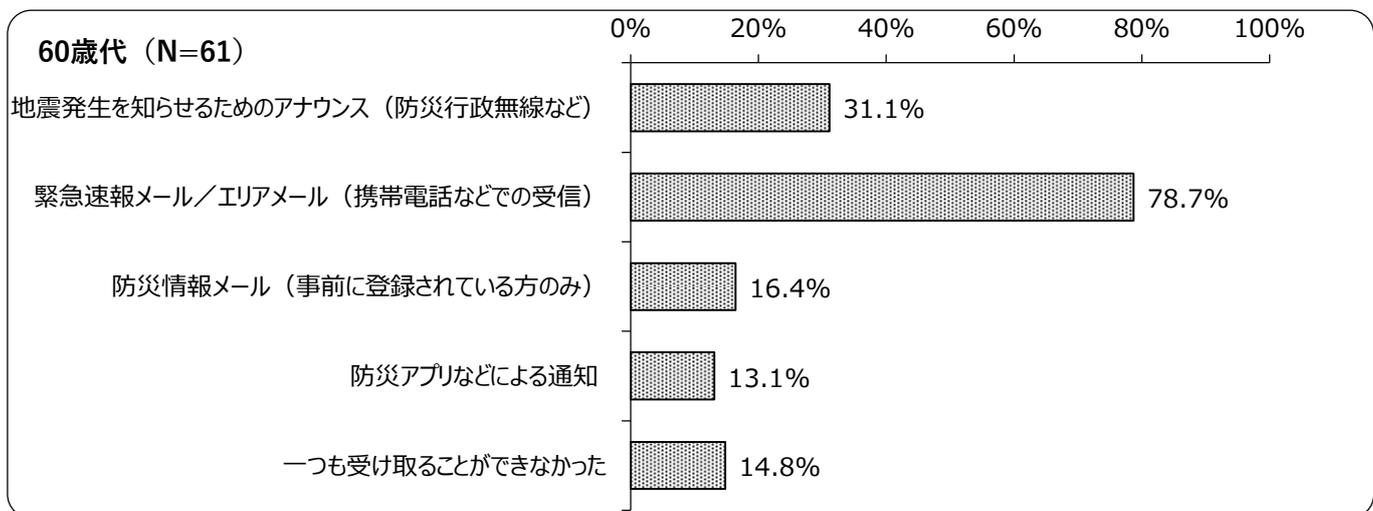
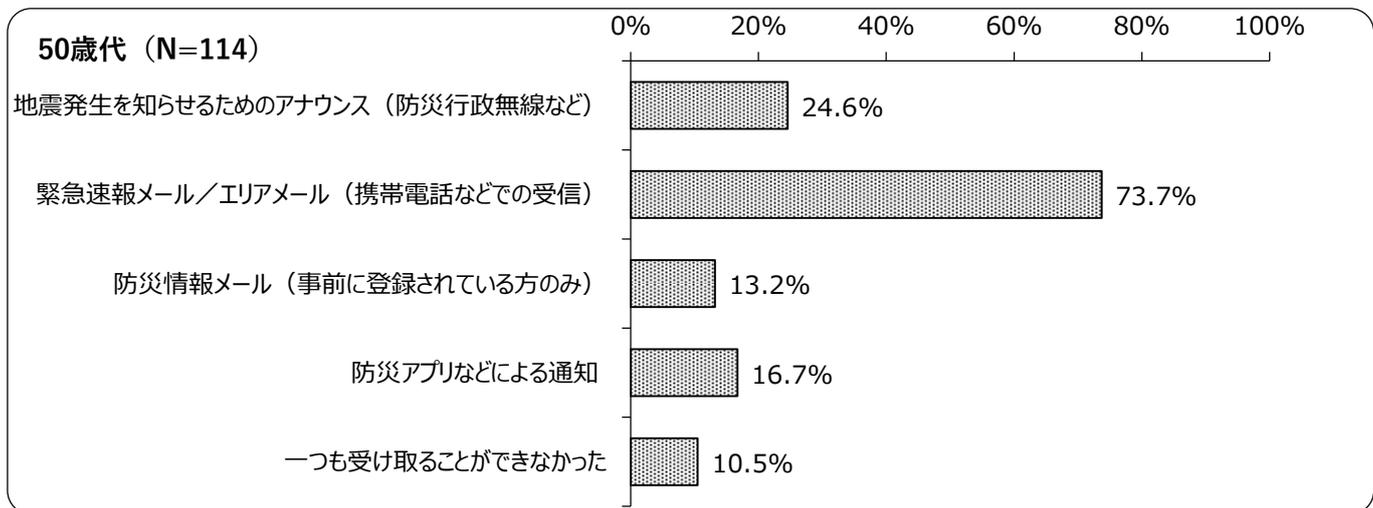
「一つも受け取ることができなかった」と回答した方の割合は 70 歳以上で約 2 割を占め、他の年代に比して多かった。

	選択項目 (N=471)	回答数	回答数/N
1	地震発生を知らせるためのアナウンス (防災行政無線など)	128	27.2%
2	緊急速報メール/エリアメール (携帯電話などでの受信)	335	71.1%
3	防災情報メール (事前に登録されている方のみ)	54	11.5%
4	防災アプリなどによる通知	52	11.0%
5	一つも受け取ることができなかった	65	13.8%



《年齢別》



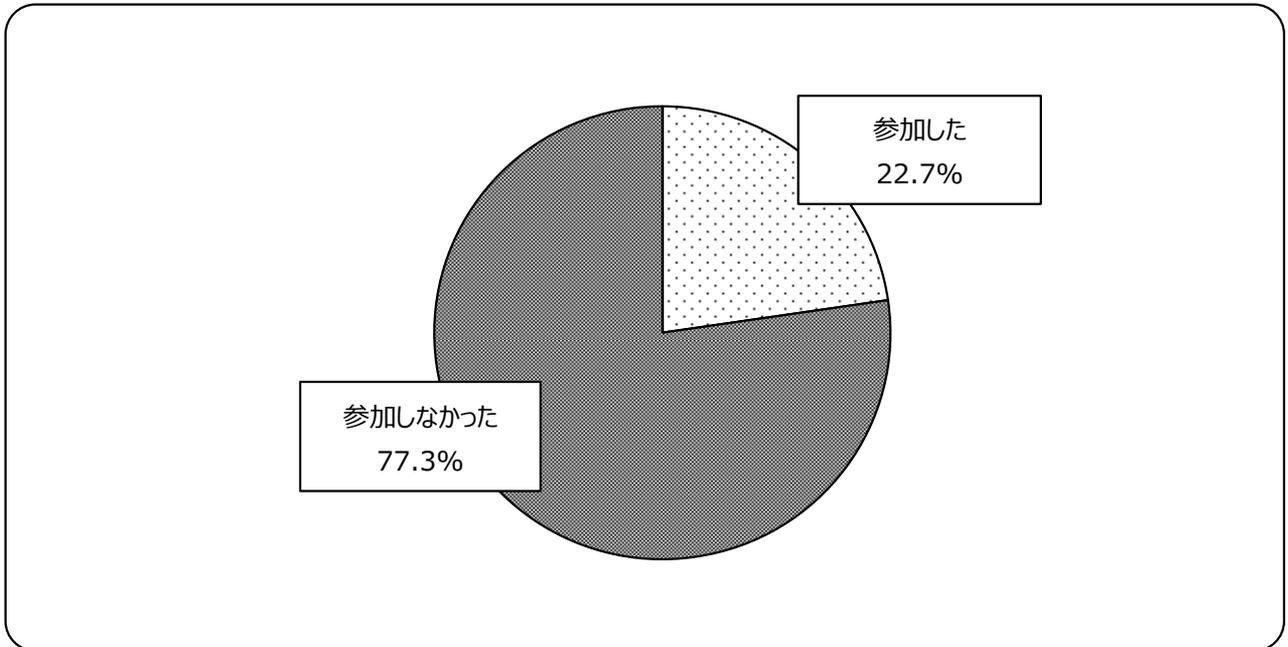


問 57. あなたは、今回の訓練に参加しましたか。

【1つ選択】

「参加した」と回答した方は 22.7%であり、令和 2 年度の 35.1%から減少した。

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	参加した	107	22.7%
2	参加しなかった	364	77.3%
	計 (回答総数)	471	100.0%

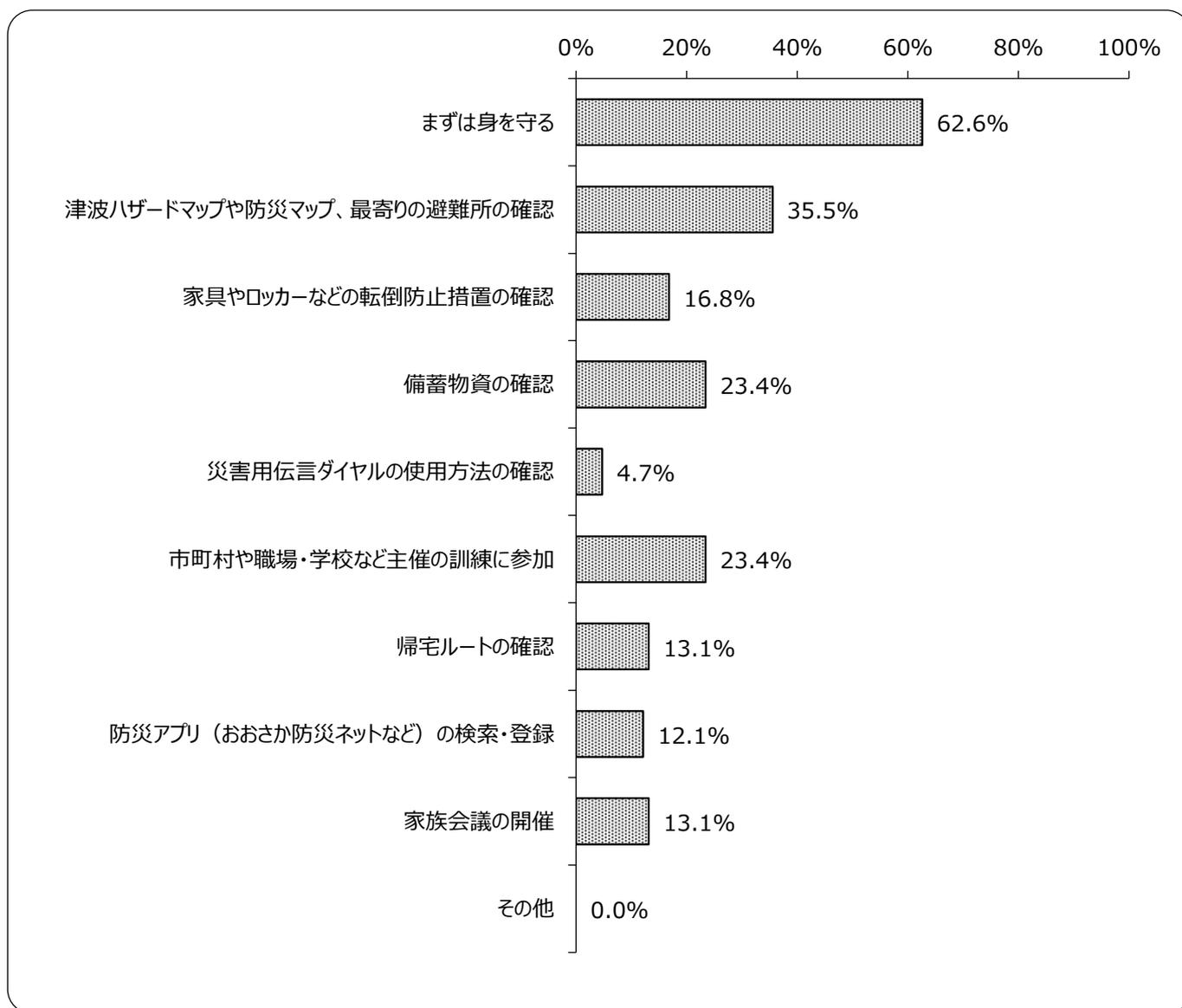


問 58. 問 57 で「1 参加した」と回答された方に伺います。どのような訓練に参加しましたか。

【複数選択可：いくつでも】

「まずは身を守る」と回答した方は約 6 割を占めた。

	選択項目 (N=107)	回答数	回答数/N
1	まずは身を守る	67	62.6%
2	津波ハザードマップや防災マップ、最寄りの避難所の確認	38	35.5%
3	家具やロッカーなどの転倒防止措置の確認	18	16.8%
4	備蓄物資の確認	25	23.4%
5	災害用伝言ダイヤルの使用方法の確認	5	4.7%
6	市町村や職場・学校など主催の訓練に参加	25	23.4%
7	帰宅ルートの確認	14	13.1%
8	防災アプリ（おおさか防災ネットなど）の検索・登録	13	12.1%
9	家族会議の開催	14	13.1%
10	その他	0	0.0%



問 59. 問 57 で「2 参加しなかった」と回答された方に伺います。

訓練に参加しなかった理由について教えてください。

【複数選択可：いくつでも】

「忙しかった」と回答した方は 50 歳代以下で半数以上を占めた。

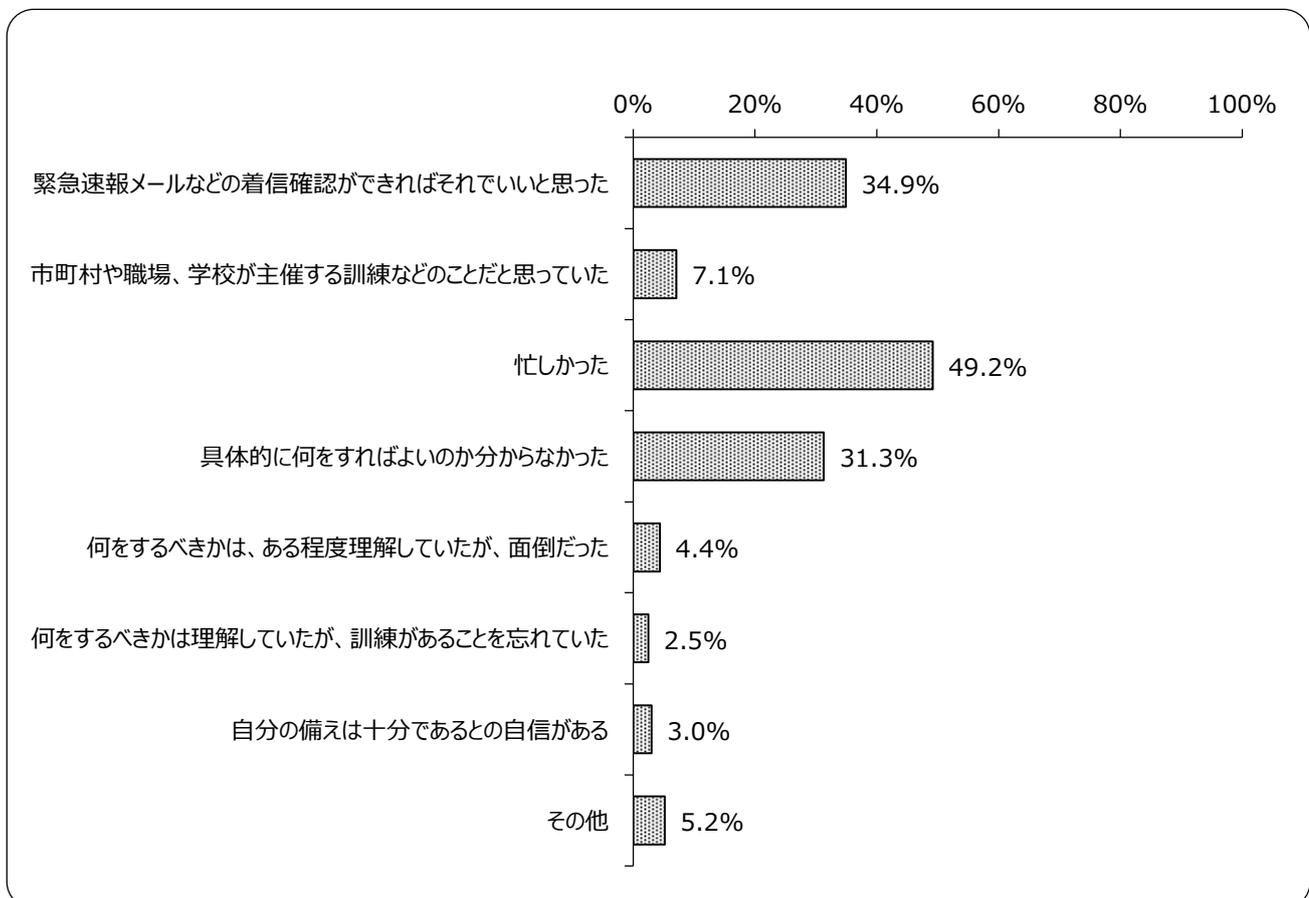
「具体的に何をすればよいのか分からなかった」と回答した方は 60 歳代以上で約 4 割を占めた。

	選択項目 (N=364)	回答数	回答数/N
1	緊急速報メールなどの着信確認ができればそれでいいと思った	127	34.9%
2	市町村や職場、学校が主催する訓練などのことだと思っていた	26	7.1%
3	忙しかった	179	49.2%
4	具体的に何をすればよいのか分からなかった	114	31.3%
5	何をすべきかは、ある程度理解していたが、面倒だった	16	4.4%
6	何をすべきかは理解していたが、訓練があることを忘れていた	9	2.5%
7	自分の備えは十分であるとの自信がある	11	3.0%
8	その他	19	5.2%

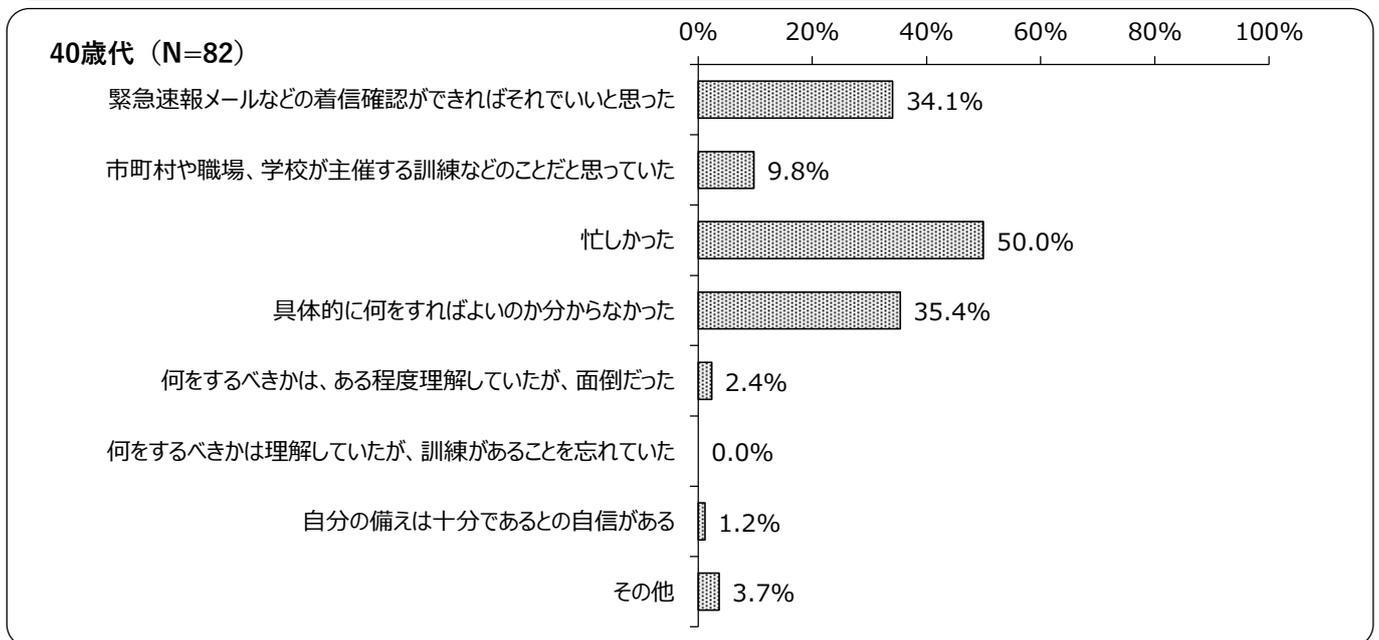
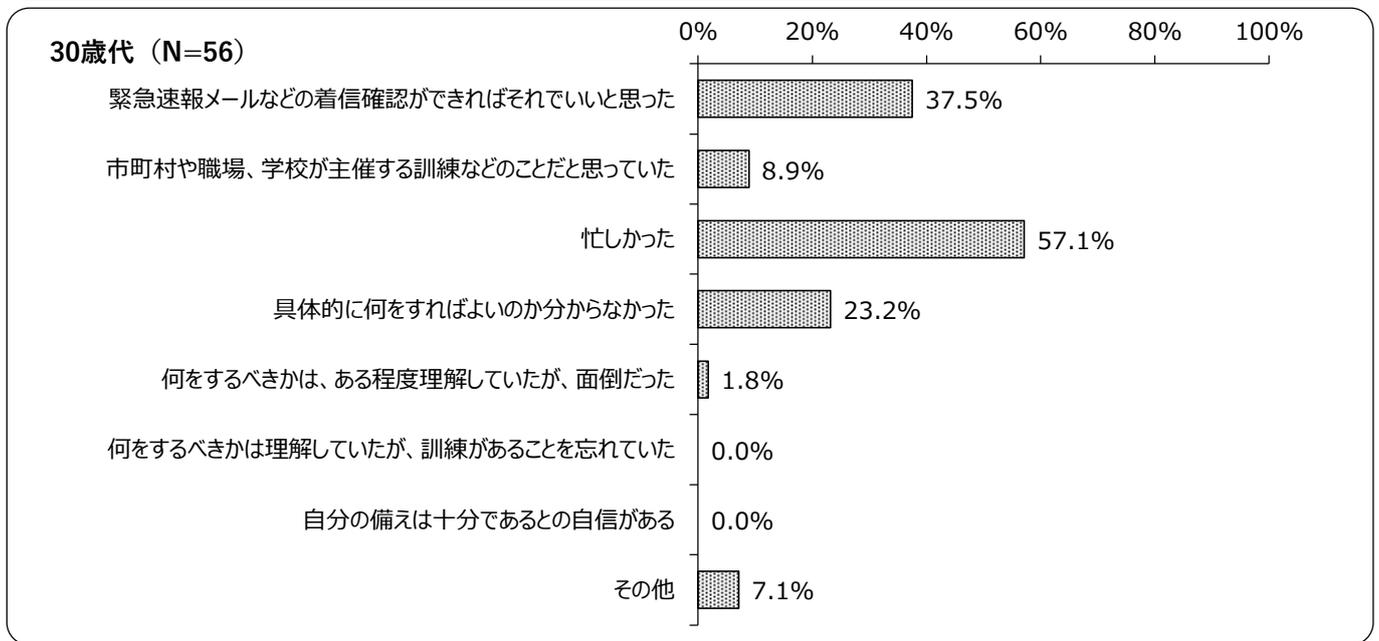
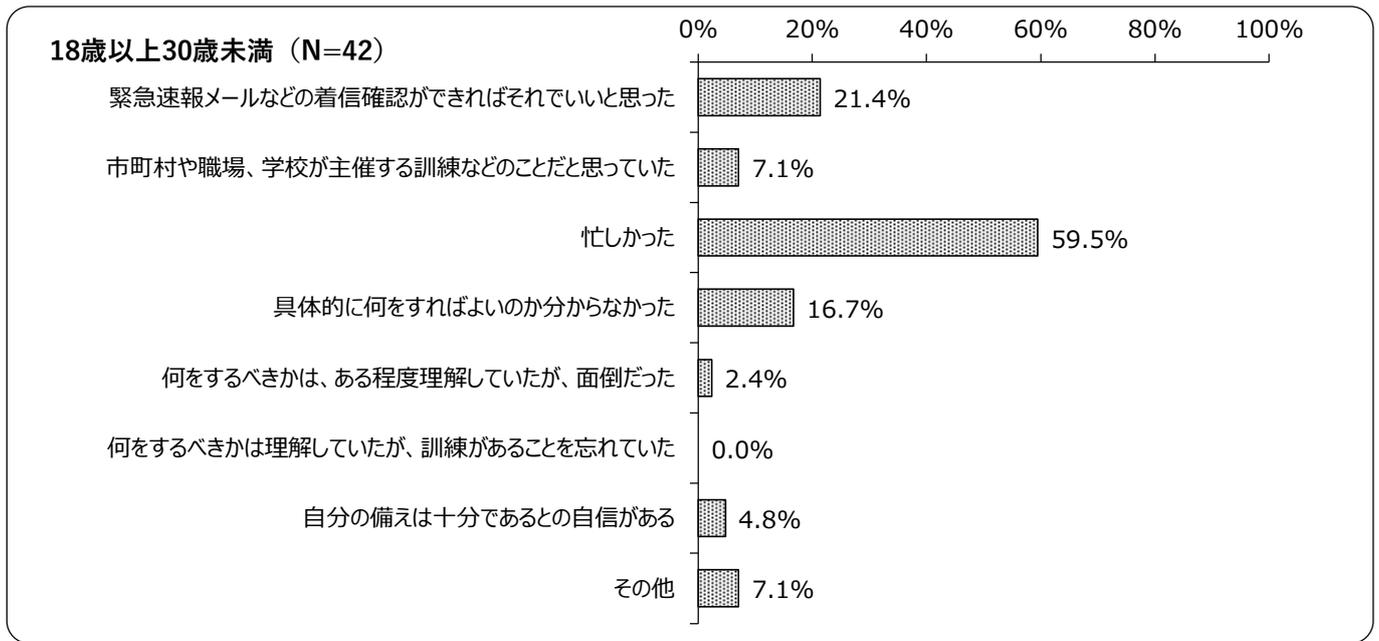
[8 その他]

【主な回答】

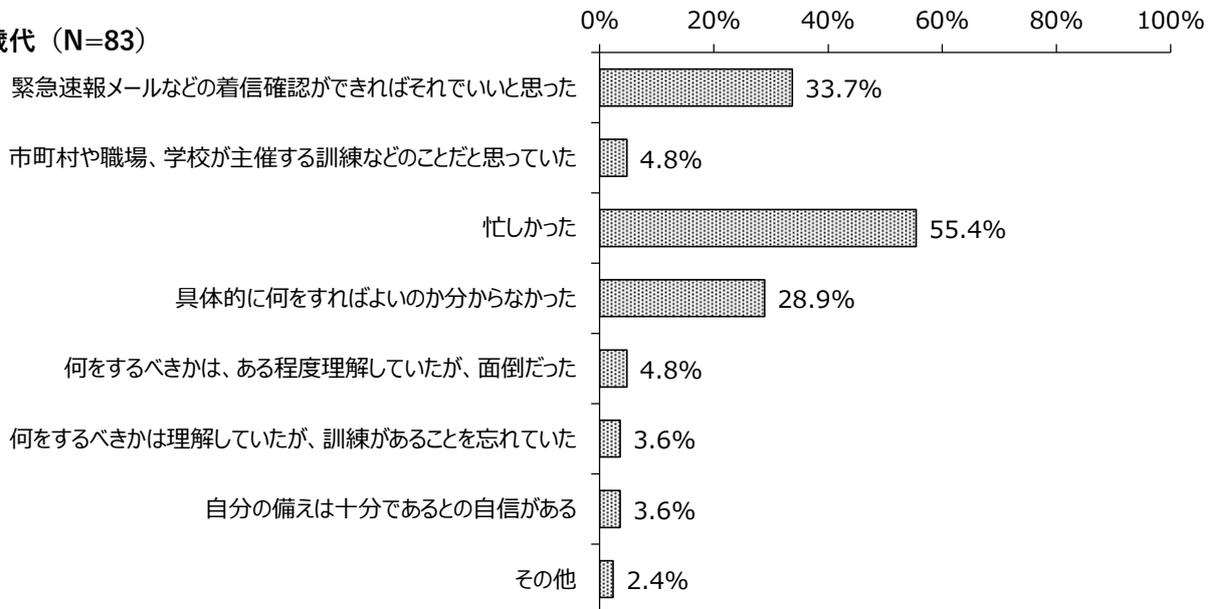
- 訓練があることを知らなかった。
- 大阪にいなかった。
- 業務中で何もできなかった。
- 高齢のため
- 障害者のため
- 携帯電話が反応せず、知らぬ間に終わっていた。
- どこで何をしているのか分からなかった。



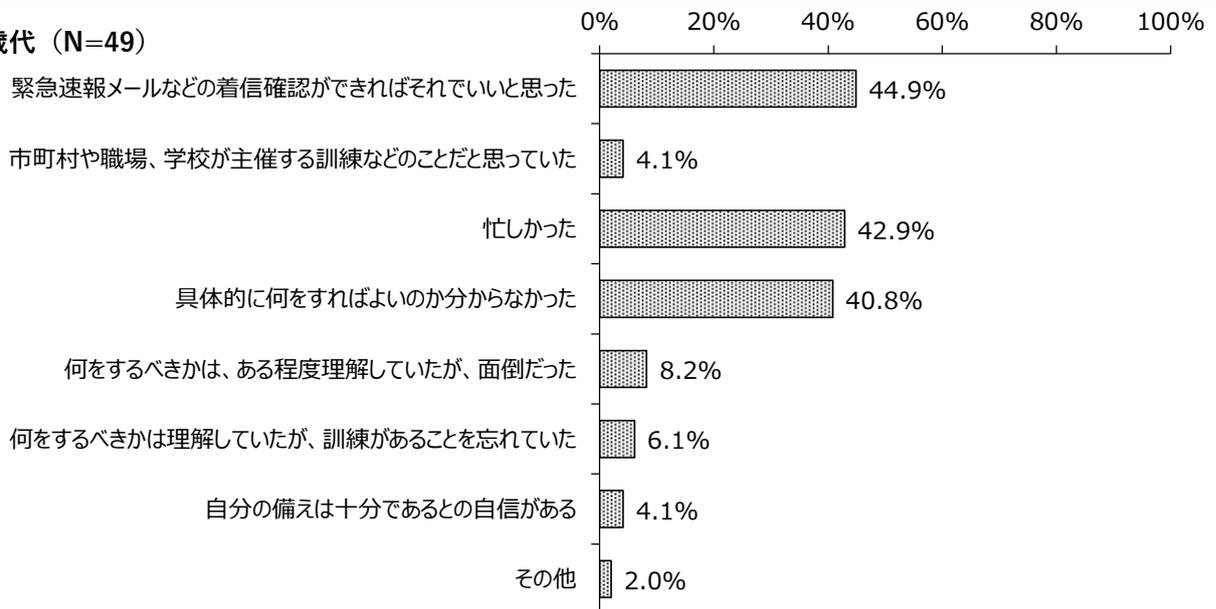
《年齢別》



### 50歳代 (N=83)



### 60歳代 (N=49)



### 70歳以上 (N=52)

